

このニュースを地域民報への転載や各支部への配布など、積極的に活用してください。

# さっぽろ 市議団ニュース

<第1回定例会>

2016年3月7日

No. 151

日本共産党札幌市議団 事務局

tel 211-3221 / fax 218-5124

## 「泊原発は再稼働すべきでない」——市長として市民の不安にこたえよ！

小形かおり議員が質問

日本共産党の小形かおり議員は4日、予算特別委員会で秋元市長を呼び、泊原発の再稼働について質問しました。

「福島原発事故から5年」とのべた小形議員は、「原発は、ひとたび過酷事故などで放射性物質が漏れれば、それを止める手段はなく、被曝によって人間の心も体も壊される」と告発。そのうえで、「本市の『地域防災計画・原子力災害対策編』では、原子力災害が発生した場合、"まずは屋内退避"としか書かれていない」と指摘しました。

小形議員が、「屋内退避はいつまでか」「泊原発に近い定山溪ダムが汚染される可能性があるが、市民の水はどう確保するのか」とただすと、小田原危機管理対策部長は、「国の原子力災害対策指針では、原発から30<sup>㏎</sup>圏外は事前の対策を講じることを要しない」とのべました。

小形議員は、「30<sup>㏎</sup>圏外だから想定しないということか、福島ではまさに『想定外』のことがおきた」「札幌は西風の影響をうける、万一泊原発で事故があった場合、札幌は大丈夫といえるのか」とただしました。

秋元市長は、「まったく影響がないとは言い切れない」とこたえたのに対し、小形議員は「わが党の代表質問に『再稼働の是非に言及できる状況にない』とのべたが、市民の不安にこたえるべき。再稼働はすべきでないという立場を明確にすべきだ」とただしました。

秋元市長は、「安全な状況で再稼働されるかどうかの説明がなされていない」なかで、その「判断をできる状況にない」と申し上げた」として、自らの考えはのべませんでした。

## 認知症グループホームなどでのスプリンクラー設置を！

伊藤りち子議員が質問

日本共産党の伊藤りち子議員は4日、予算特別委員会で認知症グループホームなどでの消防設備について質問しました。

伊藤議員は、6年前におきた認知症グループホーム（北区）での火災事故の後、国がすべての認知症グループホームにスプリンクラー設置を義務づけたとのべ、「本市にある243施設のうち3施設が未設置だが、立ち入り検査や指導を強めるべき」とただしました。

大島予防部長は、「1施設は設置され、2施設は建物の老朽化で移転を検討しているが指導を強めたい」とのべました。

また、無届有料老人ホームについて、伊藤議員が「屋内消火栓設備、スプリンクラーまたは自動火災報知設備が未設置の違反が8施設あった」と対応をただすと、大島予防部長は、「8施設のうち3施設が改善、5施設は食事サービスをやめたため設置義務はなくなった」とのべました。

伊藤議員は、「設置義務がなくなったといっても無届施設であったこともあり、立ち入り検査や指導が必要」と求めました。